



えんだより

社会福祉法人大善隣館
幼保連携型認定こども園
松陽こども園
R6年10月31日

http://www.shoyo-kodomoen.com mail shoyo@daiwazenrinkan.com

「ねないこだれだ」や「おばけのてんぷら」などいまでも読み継がれる絵本を数多く手がけた絵本作家のせなけいこさん。身近にある包装紙などを切り貼した温かみのある貼り絵が特徴で代表作の「ねないこだれだ」や「おばけのてんぷら」に登場する愛くるしい「おばけ」のキャラクターがよく知られています。そのせなさんについてある新聞にこう書かれていました。

～なぜ絵本を描くのかの質問に対し『お説教や、親が喜ぶしつけの話をするつもりはない。ただこれは自分なんだと子どもが思ってくれるような作品を作りたい』自伝でそう語っています。子ども目線だからこそ、子どもたちは自らを重ねつつ夢中でせなさんの本を読んできたのでしょ。一体どれだけの子どもがああのおばけと一緒にの夜を過ごしたろうか～

「おしまい」と絵本を閉じた時静かに息を吐いて絵本の世界から戻って来る子どもたちの心地よい感覚は、大人になっても心に残っていくのだと思います。

1960年代から1970年代頃、多様な絵本が数多く生まれました。『ぐりとぐら』、『だるまちゃんどてんぐちゃん』など、保護者の皆様も「あ、これ昔読んでもらった！」と懐かしい気持ちに包まれることがあるかと思ひます。一緒に声を出して読んで楽しんでみてください。子どもたちはこれからも沢山の本に出会い、きっと何度も読みたくなる心に残る1冊に巡り合えると思います。秋の夜長どうかゆっくと絵本を楽しんでください。

(わたしの幼少期にはすでに絵本はあったことになりませんが、残念ながら絵本を手にしたことはなくその頃は野山を飛び回っていました 森 都)

日	曜	予定及びバス園外	ぼけっとサン (月・水・金 AM9:30～)
1	金	2、3歳発表会リハーサル①	親子でミュージックケア
5	火		
6	水	にし組：よさこい教室	支援室で遊ぼう
7	木	にし組：小松高校演奏会 13:00～	
8	金	2、3歳発表会リハーサル② 布団持ち帰り	リトミック遊び
11	月		わらべうたベビーマッサージ
12	火		
13	水		支援室で遊ぼう
14	木	2、3歳発表会(祖父母向け)	
15	金	2、3歳発表会(保護者向け)	都合でお休み
18	月	にし・つき組：みんなであうたお収録	わらべうたベビーマッサージ
19	火	4、5歳児発表会リハーサル①	ミュージックケア
20	水	つき組：花育活動(サイエンスヒルズ) にし組：よさこい教室	支援室で遊ぼう
21	木	くま組1歳児：末広緑地	
22	金	消防立ち合い避難訓練 布団持ち帰り	誕生会(身体計測)
25	月		わらべうたベビーマッサージ
26	火	ほし組：いしかわ子ども交流センター	
27	水	らいおん、くま組2歳児 末広緑地/東部児童センター	支援室で遊ぼう
28	木		
29	金	4、5歳児発表会リハーサル② 園庭スック持ち帰り	都合でお休み

12月の予定

6日(金) にし・つき組祖父母向け発表会
7日(土) にし・つき組保護者向け発表会
詳細は後日お知らせいたします。

9/2は「引き渡し訓練」参加のご協力ありがとうございました

9月2日(月)の防災の日に実施しました引き渡し訓練にはたくさんの方に参加いただき、ありがとうございました。一昨年の豪雨では園内前まで水が迫り、緊急を要する事態となった経験から昨年度より引き渡し訓練を実施しています。

今年は、昨年の反省からお子様の引き渡しを保育室にしたり、キッズビューアプリで園周辺の状況をその都度載せたりと改善しました。

園では毎月避難訓練を実施しています。しかし、毎回のように反省があり、「これで大丈夫」ということはありません。災害はいつどこで起こるかわかりません。いざというとき、最善の行動がとれるよう様々な状況を想定して訓練を実施していきたいと思ひます。



玄関前には土嚢を並べ、水害に備えます。



お部屋でお子様を引き渡しました。

皆様から頂いたご意見とご感想の一部を紹介します

警戒レベル毎にどのような状況なのか、その都度お知らせが来ていたのがわかりやすかったです。玄関前に土嚢が積んであったり、子供も2階に避難していたりと本番さながら緊張感がありました。水害の際の行動を考える良い機会になりました。ありがとうございました。

洪水ハザードマップを今一度確認し実際にどこに避難するのか再確認することができました

今どれ位の水位なのか、子供たちはどう避難しているのか詳しく記載されていたのでイメージがやすかったです

たくさんのご意見とご感想ありがとうございました。

10/19 小松市 教育保育研究発表会がありました

松陽こども園は『子どもの興味関心を軸とする「つなげる・つながる保育」への進化を見つめる ～探求する“子どもと保育者の歩み”より～』をテーマに発表しました。

この研究を通して、子ども主体のわくわくした保育をするためには①対話、②活動の連続性、③記録が必要であり、①②③を実現するためには、保育者の「活動をつなげたい!」「子どもたちの願いを叶えてあげたい!」という気持ちと「どうして〇〇ちゃんはこの思ったのかな?」「子どもたちと一緒に試してみよう」といった探究心が大切であると学びました。これからも「つながる」ことをキーワードに職員みんなで明日の保育を考え、成長していきたいです。



スイカ食べてみたい



はらぺこあおむしのアイス食べてみたい

子どもの主体性

息が合う
関係性

安心感

保育者の主体性

子どもたちの思いを叶えてあげたい

